

## 関西広域連合都市農村交流フォーラムを開催

日 時：平成 29 年 8 月 21 日(月)13:30～16:30

場 所：大阪府立国際会議場 1202 会議室

参加者：都市農村交流実践者、地域おこし協力隊、構成府県市行政関係者、学生等 76名

フォーラムでは、構成府県市管内での都市農村交流の事例発表とパネルディスカッションを行い、地域におけるリーダー育成方法や、インターンシップの学生受入などについて、活発な意見交換が行われた。

### ○事例発表

「地域再生大作戦の展開について」

兵庫県地域交流室 班長 桑原弘信 氏

「閉校を活用した地域交流（兵庫県篠山市）」

くもべまちづくり協議会 会長 梶谷郁雄 氏

「過去を育てて未来を創る！？—ふるさと絵屏風による地域再生—」

滋賀県立大学地域共生センター 助教 上田洋平 氏



### ○パネルディスカッション

テーマ「持続可能な地域づくりについて考える」

コーディネーター

兵庫県 浅見雅之 氏（合同会社人・まち・住まい研究所 代表）

パネラー

兵庫県 梶谷郁雄 氏（くもべまちづくり協議会 会長）

京都府 片木孝治 氏（株式会社応用芸術研究所 代表取締役）

滋賀県 上田洋平 氏（滋賀県立大学地域共生センター 助教）

和歌山県 玉井常貴 氏（株式会社秋津野 代表取締役社長）



### 主な意見交換の内容

- ・リーダーは育てていくもの。周りのサポートがあり、育てられた人がリーダーとなっている。また、リーダーの後継者に今の取組と同じことをおしつけるのは駄目。
- ・インターンシップの受入では単なる労働力として扱うのではなく、学生の主体性の尊重が重要。地道な関係性の構築により地域との関わりが深まり、学生たちは、受入地域が第2のふるさとのように感じている。
- ・地域内の人間だけで地域づくりの取組を進めると固定概念にとらわれて途中でうまくいかなることが多い。外部の人間が入ることで継続的な取組になる。

### ○フォーラム参加者の感想

- ・優良事例の発表は、どれも興味深い話しであった。
- ・日頃、話しをする機会がないパネラーの人と知り合え、地域活性化のヒントが得られた。